

もくじ

はじめに

建てた後も幸せが続く家づくり	1
1. 構造の安定と耐震性	3
2. 火災時の安全と防・耐火性	5
3. 劣化の軽減と腐朽に対する耐久性	7
4. 維持管理への配慮と配管など維持管理のしやすさ	9
5. 温熱環境と省エネルギー性	11
6. 空気環境とシックハウス対策	14

7. 光視環境と採光換気性	16
8. 高齢者への配慮と住宅内の安全性への対応性	18
9. 音環境と遮音性	20
10. 防犯に関することと防犯対策への配慮	23
終わりに	25

2 火災時の安全と防・耐火性

地震による死者数は16年の熊本地震を除けば4年間ゼロですが、住宅火災による死者数は毎年1000人程です。

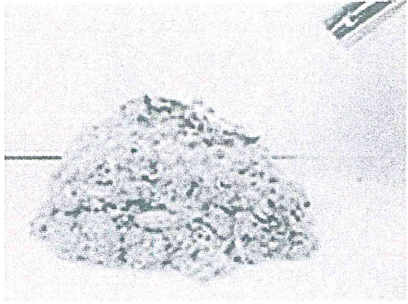
死亡原因の約半分が逃げ遅れですが、その原因のひとつに考えられるのが、石油化学建材が燃焼時に発生するガスです。

家は屋根や軒天、外壁や内装ボードに不燃材を使用するのはもちろんですが、家の7割を占める壁、床や天井などの断熱材にも、燃えない・火が移っても有毒ガスを出さない等、耐火性と安全性に非常に優れた「セルロース断熱材」などを使用することをお勧めします。

セルロース断熱材は天然素材で、しかも燃えないので、身体にも火災にも非常に安全な建材です。コストは少し上がりますが、安全性と火災保険料の安くなった分で十分にお釣りがくるのではないのでしょうか。

もらい火など、隣家の火災の延焼による被害を抑制するためには、省令準耐火構造の仕様が安心です。

特徴としては、①外壁や軒裏が防火構造なので「もらい火をしにくい」、②各室が15分以上耐火できる性能を持ち、他室への延焼を遅延させるので、たとえ出火しても「避難する時間を稼げる」、③「火災保険料が通常の三分の二程度で済む」、等が挙げられます。



【セルロース断熱材の
不燃検証実験】



【隣家のもらい火】